

1 中身がそれぞれ空である白い箱と黒い箱が1個ずつある。また、互いに区別つかない球が十分多くある。1から6の目をもつ1つのさいころを1回投げごとに、出た目が偶数であれば白い箱に目の数に等しい個数の球を入れ、出た目が奇数であれば黒い箱に目の数に等しい個数の球を入れる。ただし、1度箱に入れた球は取り出さない。さいころを3回続けて投げたとき、白い箱に入っている球の個数を n_W 、黒い箱に入っている球の個数を n_B として、以下の各問の空欄に適する1以上の整数を解答欄に記入せよ。ただし、分数は既約分数をして表すこと。

問1 $n_B=4$ となる確率は $\frac{\text{ア}}{\text{イ}}$ である。

問2 $n_B=3$ となる確率は $\frac{\text{ウ}}{\text{エ}}$ である。

問3 $n_W=8$ となる確率は $\frac{\text{オ}}{\text{カ}}$ である。

問4 $n_W=8$ という条件の下で、 $n_B \neq 0$ となる条件付き確率は $\frac{\text{キ}}{\text{ク}}$ である。

解説

3回の試行におけるサイコロの目の偶奇の回数と n_W 、 n_B の値は以下のようになる。

	(偶数、奇数)	n_W	n_B
I	(3, 0)	偶数	0
II	(2, 1)	偶数	奇数
III	(1, 2)	偶数	偶数
IV	(0, 3)	0	奇数

問1 $n_B=4$ となるのは表の「III」の場合で、目は1、3、偶数(0に対応)が出ればよいので、求める確率は

$$\frac{1}{6} \cdot \frac{1}{6} \cdot \frac{3}{6} \times 3! = \frac{1}{12}$$

問2 $n_B=3$ となるのは表の「II」「IV」の場合で、目は以下のように出ればよい。

(i) 3を1回、偶数の目を2回

(ii) 1を3回

よって、求める確率は

$$\frac{1}{6} \cdot \frac{3}{6} \cdot \frac{3}{6} \times 3 + \left(\frac{1}{6}\right)^3 = \frac{1}{8} + \frac{1}{216} = \frac{7}{54}$$

問3 $n_W=8$ となるのは表の「I」「II」の場合で、目は以下のように出ればよい。

(i) 2を2回、4を1回

(ii) 4を2回、奇数(0に対応)の目を1回

(iii) 2と6を1回ずつ、奇数の目を1回

よって、求める確率は

$$\frac{1}{6} \cdot \frac{1}{6} \cdot \frac{1}{6} \times 3 + \left(\frac{1}{6}\right)^2 \cdot \frac{3}{6} \times 3 + \frac{1}{6} \cdot \frac{1}{6} \cdot \frac{3}{6} \times 3! = \frac{1}{72} + \frac{1}{24} + \frac{1}{12} = \frac{5}{36}$$

問4 $n_B \neq 0$ となるためには、奇数の目が1回以上出ればよい。

よって、問3の(ii)、(iii)より、 $n_B \neq 0$ となる確率は

$$\frac{1}{24} + \frac{1}{12} = \frac{1}{8}$$

よって、求める条件付き確率は

$$\frac{\frac{1}{8}}{\frac{5}{36}} = \frac{9}{10}$$

2 Oを原点とする xy 平面上の曲線 $C_1: y=f(x)=\frac{4}{5}x^3-\frac{3}{5}x-\frac{1}{5} (-1\leq x\leq 2)$ 、と曲線 $C_{2,k}: y=g_k(x)=x^3-\frac{2k+3}{5}x^2+\frac{2k}{5}x-\frac{2}{5} (-1\leq x\leq 2)$ (ただし、 k は0以上の定数) の共有点の個数を $N(k)$ とおく。このとき、以下の各問いに答えよ。問4については導出過程を記せ。

問1 $f(x)=0$ を満たす x (ただし、 $-1\leq x\leq 2$) の値をすべて求めよ。答えのみでよい。
 問2 曲線 C_1 の概形を図示せよ。凹凸や変曲点は調べなくてよい。答えのみでよい。
 問3 問1で求めた各 x に対して、 $g_k(x)$ の値を求めよ。答えのみでよい。
 問4 $N(k)$ を求めよ。

解説

問1 $f(x)=0$ より

$$\begin{aligned} \frac{4}{5}x^3-\frac{3}{5}x-\frac{1}{5} &= 0 \\ \therefore 4x^3-3x-1 &= 0 \\ \therefore (x-1)(2x+1)^2 &= 0 \\ \therefore x &= 1, -\frac{1}{2} \end{aligned}$$

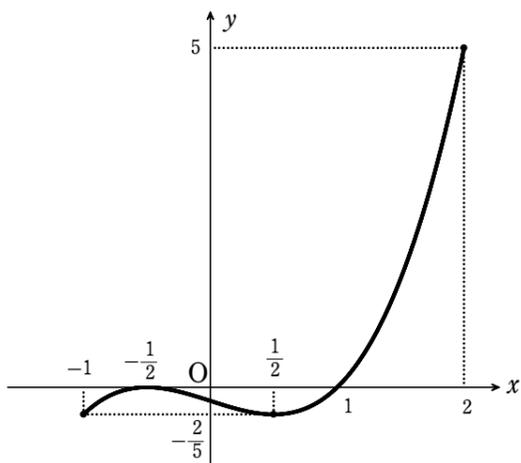
問2 $f'(x)=\frac{12}{5}x^2-\frac{3}{5}$

$$= \frac{12}{5}\left(x+\frac{1}{2}\right)\left(x-\frac{1}{2}\right) \text{ より}$$

増減表は、以下のようになる。

x	-1		$-\frac{1}{2}$		$\frac{1}{2}$		2
$f'(x)$		+	0	-	0	+	
$f(x)$	$-\frac{2}{5}$	↗	0	↘	$-\frac{2}{5}$	↗	5

よって、曲線 C_1 のグラフは以下のようになる。



問3 $g_k(1)=0$

$$g_k\left(-\frac{1}{2}\right) = -\frac{3}{10}k - \frac{27}{40}$$

問4 曲線 $C_1, C_{2,k}$ の交点の個数より

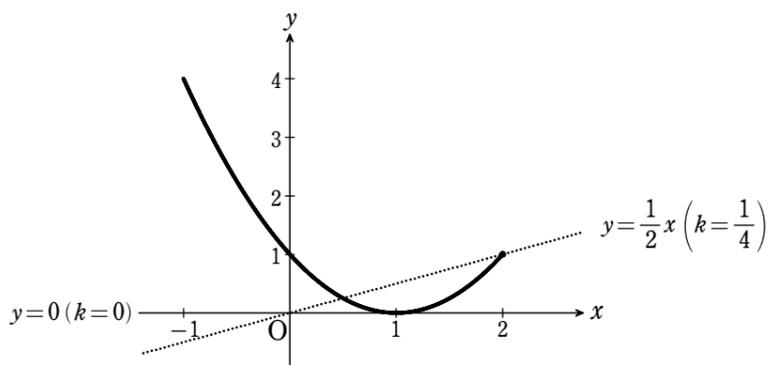
$$\begin{aligned} f(x) &= g_k(x) \quad (-1\leq x\leq 2) \\ \therefore \frac{4}{5}x^3-\frac{3}{5}x-\frac{1}{5} &= x^3-\frac{2k+3}{5}x^2+\frac{2k}{5}x-\frac{2}{5} \\ \therefore x^3-(2k+3)x^2+(2k+3)x-1 &= 0 \\ \therefore (x-1)\{x^2-2(k+1)x+1\} &= 0 \\ \therefore x=1, x^2-2(k+1)x+1 &= 0 \dots\dots \textcircled{1} \end{aligned}$$

①の解の個数について

$$\begin{aligned} x^2-2(k+1)x+1 &= 0 \\ \therefore x^2-2x+1 &= 2kx \\ \therefore (x-1)^2 &= 2kx \end{aligned}$$

よって、 $-1\leq x\leq 2$ における $\begin{cases} y=(x-1)^2 \\ y=2kx \quad (k\geq 0) \end{cases}$ の交点の個数に等しい。

グラフを考えて



①の解の個数は

$$\begin{cases} k=0 \text{ のとき、} 1 \text{ 個} \\ 0 < k \leq \frac{1}{4} \text{ のとき、} 2 \text{ 個} \\ k > \frac{1}{4} \text{ のとき、} 1 \text{ 個} \end{cases}$$

となる。

以上より、 $x=1$ を加えて (①で $k=0$ のとき、 $x=1$ は2重解となる)

$$N(k) = \begin{cases} k=0 \text{ のとき、} 1 \\ 0 < k \leq \frac{1}{4} \text{ のとき、} 3 \\ k > \frac{1}{4} \text{ のとき、} 2 \end{cases}$$

別解 ①の続きから

①の解の個数について

$$\begin{aligned} x^2-2(k+1)x+1 &= 0 \\ \therefore x^2-2x+1 &= 2kx \\ x=0 \text{ は、} \textcircled{1} \text{ の解にならないので} \\ \frac{(x-1)^2}{2x} &= k \end{aligned}$$

よって、 $-1\leq x\leq 2$ における $\begin{cases} y=\frac{(x-1)^2}{2x} \\ y=k \quad (k\geq 0) \end{cases}$ の交点の個数に等しい。

$y=\frac{(x-1)^2}{2x}$ について

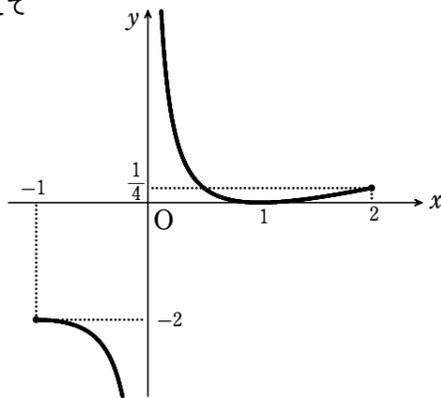
$$\begin{aligned} y' &= \frac{2(x-1)\cdot 2x - (x-1)^2\cdot 2}{4x^2} \\ &= \frac{(x-1)(x+1)}{2x^2} \text{ より} \end{aligned}$$

増減表は、以下のようになる。

x	-1		0		1		2
y'		-	↘	-	0	+	
y	-2	↘	↘	↘	0	↗	$\frac{1}{4}$

また、 $\lim_{x\rightarrow 0^-} y = -\infty, \lim_{x\rightarrow 0^+} y = \infty$ より

グラフを考えて



①の解の個数は

$$\begin{cases} k=0 \text{ のとき、} 1 \text{ 個} \\ 0 < k \leq \frac{1}{4} \text{ のとき、} 2 \text{ 個} \\ k > \frac{1}{4} \text{ のとき、} 1 \text{ 個} \end{cases}$$

となる。

以上より、 $x=1$ を加えて (①で $k=0$ のとき、 $x=1$ は2重解となる)

$$N(k) = \begin{cases} k=0 \text{ のとき、} 1 \\ 0 < k \leq \frac{1}{4} \text{ のとき、} 3 \\ k > \frac{1}{4} \text{ のとき、} 2 \end{cases}$$

3 Oを原点とする座標空間において、1辺の長さが1である正四面体をOABCとする。 $0 < x < 1$ を満たす x に対して、辺ABを $x:(1-x)$ に内分する点をDとし、辺BCを $x:(1-x)$ に内分する点をEとする。また、線分AEと線分CDの交点をPとおき、直線OE上の点をQを $\vec{OQ} \cdot \vec{OA} = \vec{BD} \cdot \vec{BE}$ となるようにとる。 $\triangle APC$ の面積を S とし、 $\triangle OAQ$ の面積を T とする。このとき、以下の各問いに答えよ。問4については導出過程も記せ。

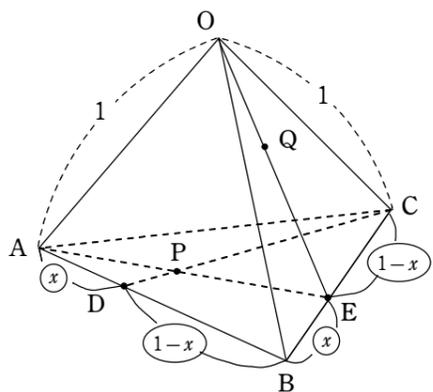
問1 S を x を用いて表せ。答えのみでよい。

問2 $|\vec{OE}|$ を x を用いて表せ。答えのみでよい。

問3 $r = x(1-x)$ とおくとき、 T を r のみを用いて表せ。答えのみでよい。

問4 x を $0 < x < 1$ の範囲で動かすとき、 $\frac{S}{T^2}$ の最小値とそのときの x の値を求めよ。

解説



問1 メネラウスの定理より

$$\frac{BA}{AD} \cdot \frac{DP}{PC} \cdot \frac{CE}{EB} = 1$$

$$\therefore \frac{1}{x} \cdot \frac{DP}{PC} \cdot \frac{1-x}{x} = 1$$

$$\therefore DP : PC = x^2 : (1-x)$$

よって、 $S = \triangle APC$

$$= \frac{PC}{DC} \cdot \triangle ADC$$

$$= \frac{PC}{DC} \cdot x \cdot \triangle ABC$$

$$= \frac{1-x}{x^2 + (1-x)} \cdot x \cdot \left(\frac{1}{2} \cdot 1^2 \cdot \sin \frac{\pi}{3} \right)$$

$$= \frac{\sqrt{3}x(1-x)}{4(x^2 - x + 1)}$$

問2 $\triangle OBE$ で余弦定理より

$$OE^2 = OB^2 + BE^2 - 2 \cdot OB \cdot BE \cdot \cos \frac{\pi}{3}$$

$$= 1 + x^2 - 2 \cdot 1 \cdot x \cdot \frac{1}{2}$$

$$= x^2 - x + 1$$

$$\text{よって、} |\vec{OE}| = \sqrt{x^2 - x + 1}$$

問3 $\vec{OQ} = t\vec{OE}$ とおくと (t : 実数)

$$\vec{OQ} \cdot \vec{OA} = \vec{BD} \cdot \vec{BE} \text{ より}$$

$$t\vec{OE} \cdot \vec{OA} = (1-x)\vec{BA} \cdot x\vec{BC}$$

$$= (1-x)x \cdot 1 \cdot 1 \cdot \cos \frac{\pi}{3}$$

$$= \frac{r}{2}$$

ここで、 $\triangle OAE$ で余弦定理より

$$AE^2 = OA^2 + OE^2 - 2 \cdot OA \cdot OE \cdot \cos \angle AOE$$

$$\therefore 0 = 1 - 2\vec{OA} \cdot \vec{OE} \quad (\because AE = OE, \vec{OA} \cdot \vec{OE} = OA \cdot OE \cdot \cos \angle AOE)$$

$$\therefore \vec{OA} \cdot \vec{OE} = \frac{1}{2}$$

よって、 $t\vec{OE} \cdot \vec{OA} = \frac{r}{2}$ より

$$\frac{t}{2} = \frac{r}{2}$$

$$\therefore t = r$$

よって、 $OQ : QE = r : 1-r$ となるので

$$T = \triangle OAQ$$

$$= r \cdot \triangle OAE$$

$$= r \cdot \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{OA}|^2 |\vec{OE}|^2 - (\vec{OA} \cdot \vec{OE})^2}$$

$$= \frac{r}{2} \sqrt{1^2 \cdot (x^2 - x + 1) - \left(\frac{1}{2}\right)^2}$$

$$= \frac{r}{2} \sqrt{x^2 - x + \frac{3}{4}}$$

$$= \frac{r}{2} \sqrt{-x(1-x) + \frac{3}{4}}$$

$$= \frac{r}{2} \sqrt{-r + \frac{3}{4}}$$

$$= \frac{r}{4} \sqrt{3-4r}$$

問4 $r = x(1-x) = -\left(x - \frac{1}{2}\right)^2 + \frac{1}{4}$ より

$0 < x < 1$ で、 $0 < r \leq \frac{1}{4}$ となる。

$$\text{また、} S = \frac{\sqrt{3}x(1-x)}{4(x^2 - x + 1)}$$

$$= \frac{\sqrt{3}x(1-x)}{4[-x(1-x) + 1]}$$

$$= \frac{\sqrt{3}r}{4(1-r)} \text{ より}$$

$$\frac{S}{T^2} = \frac{\frac{\sqrt{3}r}{4(1-r)}}{\left(\frac{r}{4} \sqrt{3-4r}\right)^2}$$

$$= \frac{4\sqrt{3}}{r(1-r)(3-4r)}$$

ここで、 $f(r) = r(1-r)(3-4r)$ とおくと

$$f(r) = 4r^3 - 7r^2 + 3r \text{ より}$$

$$f'(r) = 12r^2 - 14r + 3$$

$$f'(r) = 0 \text{ より、} r = \frac{7 \pm \sqrt{13}}{12}$$

$\frac{1}{4}$ と $\frac{7-\sqrt{13}}{12}$ の大きさを比べると

$$\frac{1}{4} - \frac{7-\sqrt{13}}{12} = \frac{\sqrt{13}-4}{12}$$

$$= \frac{\sqrt{13}-\sqrt{16}}{12} < 0$$

よって、 $\frac{1}{4} < \frac{7-\sqrt{13}}{12}$ となる。

これより、 $0 < r \leq \frac{1}{4}$ で、 $f'(r) > 0$ となるので、 $f(r)$ は単調増加となる。

したがって、 $f(r)$ は、 $r = \frac{1}{4}$ で最大値となるので、 $\frac{S}{T^2}$ は $r = \frac{1}{4}$ で最小値をとる。

よって、 $r = \frac{1}{4}$ のとき、つまり、 $x = \frac{1}{2}$ で (\because 図1)

$$\text{最小値: } \frac{4\sqrt{3}}{f\left(\frac{1}{4}\right)} = \frac{4\sqrt{3}}{\frac{3}{8}} = \frac{32\sqrt{3}}{3} \text{ をとる。}$$

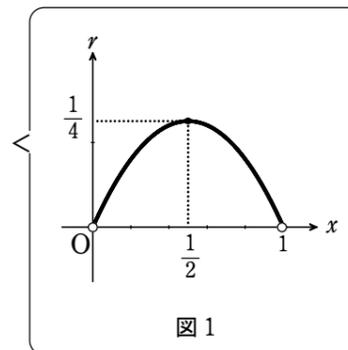
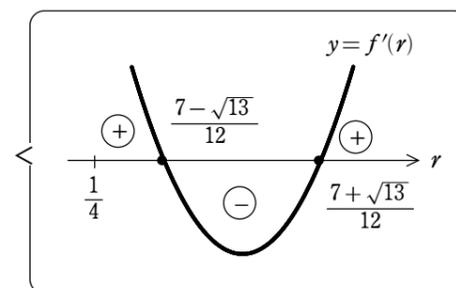


図1



4 以下の各問いに答えよ。問2(2)、問3については導出過程も記せ。

問1 次の定積分の値を求めよ。答えのみでよい。

$$\int_0^{\sqrt{3}-1} \frac{dx}{x^2+2x+4}$$

問2 $n=0, 1, 2, \dots$ とするとき、 $0 < a < 1$ を満たす a の値に対し

$$I_n(a) = \int_0^a \frac{x^{3n}}{1-x^2} dx$$

とおく。

(1) 次の不等式が成り立つことを証明せよ。

$$0 \leq I_n(a) \leq \frac{a^{3n+1}}{(1-a^3)(3n+1)}$$

(2) $I_n(a) - I_{n+1}(a)$ を n と a のみで表せ。

問3 つぎの無限級数は収束する。その和を求めよ。

$$\sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{3n+1} \left(\frac{3\sqrt{3}-5}{4} \right)^n$$

解説

問1

$$\int_0^{\sqrt{3}-1} \frac{dx}{x^2+2x+4} = \int_0^{\sqrt{3}-1} \frac{dx}{(x+1)^2+3}$$

$$x+1 = \sqrt{3} \tan \theta \text{ とおくと、} dx = \frac{\sqrt{3}}{\cos^2 \theta} d\theta$$

$$x: 0 \rightarrow \sqrt{3}-1 \text{ のとき、} \theta: \frac{\pi}{6} \rightarrow \frac{\pi}{4}$$

$$\text{よって、} \int_0^{\sqrt{3}-1} \frac{dx}{(x+1)^2+3} = \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{4}} \frac{1}{(\sqrt{3} \tan \theta)^2+3} \cdot \frac{\sqrt{3}}{\cos^2 \theta} d\theta$$

$$= \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{4}} \frac{\sqrt{3}}{3(1+\tan^2 \theta)} \cdot \frac{d\theta}{\cos^2 \theta}$$

$$= \int_{\frac{\pi}{6}}^{\frac{\pi}{4}} \frac{\sqrt{3}}{3} d\theta$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{3} \left(\frac{\pi}{4} - \frac{\pi}{6} \right)$$

$$= \frac{\sqrt{3}}{36} \pi$$

問2

(1) $0 \leq x \leq a (< 1)$ より

$$0 \leq x^3 \leq a^3$$

$$\therefore 0 \leq 1 - a^3 \leq 1 - x^3$$

$$\therefore 0 \leq \frac{1}{1-x^3} \leq \frac{1}{1-a^3}$$

$$\therefore 0 \leq \frac{x^{3n}}{1-x^3} \leq \frac{x^{3n}}{1-a^3}$$

$$\therefore 0 \leq \int_0^a \frac{x^{3n}}{1-x^3} dx \leq \int_0^a \frac{x^{3n}}{1-a^3} dx$$

$$\therefore 0 \leq I_n(a) \leq \int_0^a \frac{x^{3n}}{1-a^3} dx$$

$$\text{ここで、} \int_0^a \frac{x^{3n}}{1-a^3} dx = \frac{1}{1-a^3} \left[\frac{x^{3n+1}}{3n+1} \right]_0^a$$

$$= \frac{a^{3n+1}}{(1-a^3)(3n+1)}$$

$$\text{よって、} 0 \leq I_n(a) \leq \frac{a^{3n+1}}{(1-a^3)(3n+1)}$$

$$(2) I_n(a) - I_{n+1}(a) = \int_0^a \left(\frac{x^{3n}}{1-x^3} - \frac{x^{3n+3}}{1-x^3} \right) dx$$

$$= \int_0^a \frac{x^{3n}(1-x^3)}{1-x^3} dx$$

$$= \int_0^a x^{3n} dx$$

$$= \left[\frac{x^{3n+1}}{3n+1} \right]_0^a$$

$$= \frac{a^{3n+1}}{3n+1}$$

問3 $S_n = \sum_{k=0}^n \frac{a^{3k}}{3k+1}$ とおくと

$$S_n = \frac{1}{a} \sum_{k=0}^n \frac{a^{3k+1}}{3k+1}$$

$$= \frac{1}{a} \sum_{k=0}^n \{I_k(a) - I_{k+1}(a)\}$$

$$= \frac{1}{a} [\{I_0(a) - I_1(a)\} + \{I_1(a) - I_2(a)\} + \dots + \{I_n(a) - I_{n+1}(a)\}]$$

$$= \frac{1}{a} \{I_0(a) - I_{n+1}(a)\}$$

ここで、 $(p+q\sqrt{3})^3 = p^3 + 3\sqrt{3}p^2q + 9pq^2 + 3\sqrt{3}q^3$

$$= p^3 + 9pq^2 + (3p^2q + 3q^3)\sqrt{3} \text{ より}$$

$$(p+q\sqrt{3})^3 = \frac{3\sqrt{3}-5}{4} \text{ とすると (} p, q \text{: 有理数)}$$

$$\begin{cases} p^3 + 9pq^2 = -\frac{5}{4} & \dots\dots\dots \text{①} \\ 3p^2q + 3q^3 = \frac{3}{4} & \dots\dots\dots \text{②} \end{cases}$$

$$\text{①より、} -\frac{4}{5}(p^3 + 9pq^2) = 1 \dots\dots\dots \text{③}$$

$$\text{②より、} 4(p^2q + q^3) = 1 \dots\dots\dots \text{④}$$

③、④より

$$-\frac{4}{5}(p^3 + 9pq^2) = 4(p^2q + q^3)$$

$$\therefore -p^3 - 9pq^2 = 5(p^2q + q^3)$$

$$\therefore p^3 + 5p^2q + 9pq^2 + 5q^3 = 0$$

$q=0$ のとき、 $p=0$ となり不適

よって、 $q \neq 0$ において

$$\left(\frac{p}{q}\right)^3 + 5\left(\frac{p}{q}\right)^2 + 9\left(\frac{p}{q}\right) + 5 = 0$$

$\frac{p}{q} = t$ (t : 実数) とおくと

$$t^3 + 5t^2 + 9t + 5 = 0$$

$$\therefore (t+1)(t^2 + 4t + 5) = 0$$

$t^2 + 4t + 5 = (t+2)^2 + 1 > 0$ より

$$t = -1$$

$$\therefore \frac{p}{q} = -1$$

$$\therefore p = -q \dots\dots\dots \text{⑤}$$

④に代入して

$$8q^3 = 1$$

$$\therefore q = \frac{1}{2} \text{ (} \because q \text{ は有理数)}$$

$$\text{⑤より、} p = \frac{1}{2}$$

$$\text{よって、} \left(-\frac{1}{2} + \frac{1}{2}\sqrt{3}\right)^3 = \frac{3\sqrt{3}-5}{4} \text{ より}$$

$$a = \frac{\sqrt{3}-1}{2} \text{ とすると (} 0 < a < 1 \text{ を満たす)}$$

$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{a^{3n+1}}{(1-a^3)(3n+1)} = 0$ であるから

問2(1)より、はさみうちの原理から

$$\lim_{n \rightarrow \infty} I_n(a) = 0$$

よって、 $\lim_{n \rightarrow \infty} I_{n+1}(a) = 0$ となる。

$$\text{これより、} \lim_{n \rightarrow \infty} S_n = \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{a} \{I_0(a) - I_{n+1}(a)\}$$

$$= \frac{1}{a} \cdot I_0(a) \dots\dots\dots \text{⑥}$$

となる。

$$\text{よって、} I_0(a) = \int_0^{\frac{\sqrt{3}-1}{2}} \frac{1}{1-x^3} dx \text{ で}$$

$$x = \frac{t}{2} \text{ とおくと、} dx = \frac{1}{2} dt \text{ で}$$

$$x: 0 \rightarrow \frac{\sqrt{3}-1}{2} \text{ のとき、} t: 0 \rightarrow \sqrt{3}-1 \text{ となるので}$$

$$I_0(a) = \int_0^{\sqrt{3}-1} \frac{1}{1-\left(\frac{t}{2}\right)^3} \cdot \left(\frac{1}{2} dt\right)$$

$$= \int_0^{\sqrt{3}-1} \frac{4}{8-t^3} dt$$

$$= \int_0^{\sqrt{3}-1} \frac{4}{(2-t)(t^2+2t+4)} dt$$

ここで、 $\frac{4}{(2-t)(t^2+2t+4)} = \frac{A}{2-t} + \frac{B(2t+2)}{t^2+2t+4} + \frac{C}{t^2+2t+4}$ とおくと

$$4 = A(t^2+2t+4) + B(2t+2)(2-t) + C(2-t)$$

$$\therefore 4 = (A-2B)t^2 + (2A+2B-C)t + 4A+4B+2C$$

すべての t で成立より

$$\begin{cases} A-2B=0 \\ 2A+2B-C=0 \\ 4A+4B+2C=4 \end{cases} \quad \therefore A=\frac{1}{3}, B=\frac{1}{6}, C=1$$

$$\begin{aligned} \text{よって、} I_0(a) &= \int_0^{\sqrt{3}-1} \left\{ \frac{1}{3} \cdot \frac{1}{2-t} + \frac{1}{6} \cdot \frac{(t^2+2t+4)'}{t^2+2t+4} + \frac{1}{t^2+2t+4} \right\} dt \\ &= \left[-\frac{1}{3} \log|2-t| + \frac{1}{6} \log|t^2+2t+4| \right]_0^{\sqrt{3}-1} + \frac{\sqrt{3}}{36} \pi \quad (\because \text{問1}) \\ &= -\frac{1}{3} \log(3-\sqrt{3}) + \frac{1}{6} \log 6 + \frac{\sqrt{3}}{36} \pi \\ &= \frac{1}{6} \log \frac{6}{(3-\sqrt{3})^2} + \frac{\sqrt{3}}{36} \pi \\ &= \frac{1}{6} \log(2+\sqrt{3}) + \frac{\sqrt{3}}{36} \pi \end{aligned}$$

したがって、⑥より

$$\begin{aligned} \sum_{n=0}^{\infty} \frac{1}{3n+1} \left(\frac{3\sqrt{3}-5}{4} \right)^n &= \frac{1}{a} \cdot I_0(a) \\ &= \frac{2}{\sqrt{3}-1} \cdot \left\{ \frac{1}{6} \log(2+\sqrt{3}) + \frac{\sqrt{3}}{36} \pi \right\} \\ &= \frac{\sqrt{3}+1}{36} \{ 6 \log(2+\sqrt{3}) + \sqrt{3} \pi \} \end{aligned}$$